

# 上下スウェットで男の心とカラダを鍛える

物語の時期が冬ということもあり、ロードワーク中は常に黒のニットキャップをかぶる。普段着ではイタリア移民らしい黒の中折れフェルトハットを愛用している。

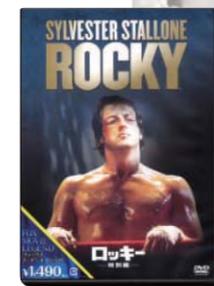


- 〈P64-67資料協力〉
- ①ベルベルジン ☎03-3401-4666
  - ②マービンス ☎03-5466-2390
  - ③アメリカ ☎03-3713-7335
  - ④サイダー ☎03-5722-0156
  - ⑤ウエアハウス恵比寿店 ☎03-5457-7899
  - ⑥サファリ1号店 ☎03-5378-9230
  - ⑦テレパシールート ☎03-5456-3939
  - ⑧ビッグステ 渋谷 ☎03-6427-3392
  - ⑨セカンドブーム ☎03-3462-1721
  - ⑩ヴォイス ☎03-3497-1339
  - ⑪代官山 蔦屋書店 ☎03-3770-2525

半袖スウェット、ジップパーカ共にブランド不明。半袖スウェットの背中に書かれたITALIAN STALIONの書体がシーンにより異なるため何枚か用意されていたようだ。

ウエストは紐、裾は切りっ放しにされているよう。どうでもよいが、有名なフィラデルフィア美術館のシーンでは後ろ姿が映るが、パンツを上げ過ぎてかなり食い込んでいる。

スニーカーは、黒いヒールパッチが映っていることから、コンバースのチャックテイラーだと思われる。ちなみに70年代チャックテイラーは古着市場で探すことができる。



上下グレーのスウェットは、マーク・ウォルバーグ主演の『ザ・ファイター』にも見られる。やはりトレーニングウェアはグレー無地上下がキーワードだ。①

**ROCKY**  
監督ジョン・G・アビルドセン、主演シルベスター・スタローン。1976年公開。突如訪れた世界チャンプとの対戦に向けて、厳しいトレーニングをする無名のボクサー役を演じたスタローンは、この映画で一躍スターダムに。2006年にはアメリカ連邦議会図書館が管理する国立フィルム登録簿に登録されている。

映画「ロッキー」のテーマ曲を聞くと、無性にカラダを鍛えたいくなる。そんな時に何を着るか。イメージから着るモノを選ぶことも大事なことである。



**KEY POINT**

## SWEAT

ロッキーのスウェットスタイルにおいてもっとも注目すべきはパンツインだ。ジップパーカに半袖スウェットを重ね着し、まとめてパンツイン。街着の観点から見ると滑稽な姿に見えるが、機動性重視のスウェットにおいて、本来はこれが正解だ。写真の両Vスウェット (Wilson) の裾に注目。裾端はかがり縫い、サイドにはスリット。まざれもなくパンツイン仕様だ。⑤

上下スウェットスタイルでLet'sトレーニング!  
ランニングブルームが浸透するなか、防風性に優れたウインドストップパーや吸汗性に優れたクールマックスなど、スポーツ時のカラダを常に快適にキープしてくれる高機能ウェアがたくさんリリースされている。しかし、ここではあえてそんなハイテク時代に逆行したい。結論からいおう。男のスポーツウェアはスウェットである！

映画「ロッキー」では、パーカと半袖のスウェットを重ね着し、スウェットパンツにイン。背中にはロッキーのリングネーム「ITALIAN STALION」がマジックで殴り書きされている。「ロッキー2」では穴の開いたスウェット姿を見たトレーナーからの「まだそんなボロを着ているのか」という言葉に対し、「縁起がイイんだ」とスウェットに対するこだわりを語るシーンもある。

いざカラダを鍛えようと思っても、日頃の怠惰な生活から一歩踏み出すのは正直億劫だ。そんな時はロッキーよろしく上下スウェットでばっちりキメてみよう。トレーニングしている自分がイメージしやすいはずだ。もし挫折してしまっても大丈夫。上下セットのスウェットは寝巻きにももってこいだ。(M・Y)



上下スウェットで男の心とカラダを鍛える



Championリバースウィーブ。股のガゼットはないが、ポケットが装備される。アメリカ製。④



Champion製リバースウィーブ仕様。1960年代頃の通称タタキタグ。カレッジ物だ。⑥



Championリバースウィーブ。1970年代頃の単色赤タグ。ウエストは紐、裾にはゴムが。②



U.S.NAVY 支給品。ネップ入りの肉厚な生地に加え、ヒザ当てが付くなど丈夫な作り。③



U.S.NAVY 支給品。ヒザ当て付きの肉厚生地だが、股にはガゼットを配し機動性も確保。①



U.S.NAVY支給品。摩擦や引張に強いアクリルを混紡する辺りがミリタリーらしい。④

### ボクならこう着る

ピグスティ渋谷 対馬一徹さん  
上下無地スウェットはあくまでもトレーニング時の着こなし。街中で着るにはさすがに野暮だ。ましてパンツインなんて…。ということでオシャレなスウェットの取り入れ方を提案。トップスはグレーのビッグサイズ無地スウェットを軸に、チェックベストで色付けを。ボトムは黒のケミカルジーンズに1970年代のチャックテイラー、そして仕上げはストアブランドのワークキャップ。無味なスウェットもアクセントカラーとサイズ感でオシャレに着られるというわけだ。



1950年代頃のノーブランド。セットインスリーブ、丸胴、そしてダブルフェイス仕様だ。⑦



映画ではハイカットを履いていたが、こちらはローカット。1970年代のチャックテイラー。⑧



古いレザーグローブ。実際にボクシングするかどうかは別だが、やる気は出そう。非売品。⑩



Championのジップパーカ。リバースウィーブ。肉厚な生地は汗をかくのにもってこい。①

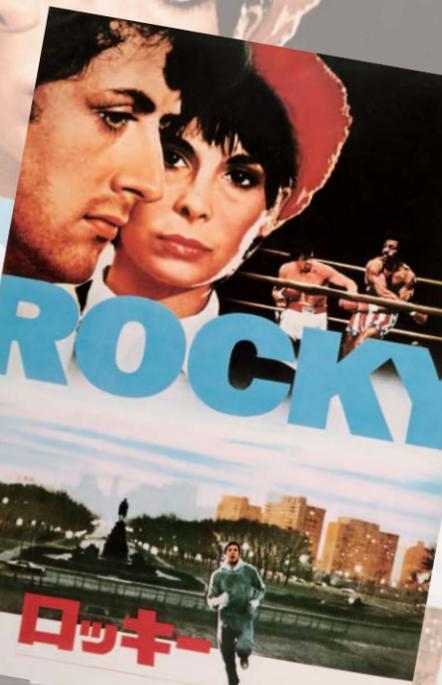
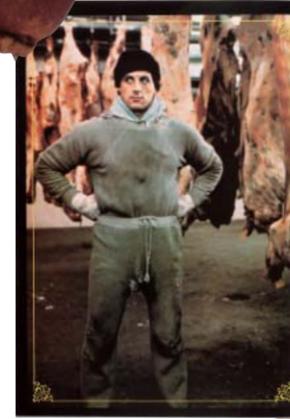
Championリバースウィーブの半袖タイプ。ゴールド単色タグ。バックに手描き英字が。①



Champion製。1950年代頃のランタグ。シームレスな丸胴編み、セットインスリーブ仕様。①



トレーニングスタイルに欠かせないチューブソックス。2本ラインがまさにスポーティ。⑨



# ハンターとマウンテンパーカの関係

劇中では、ネルカウールが微妙なところではあるが、ネイビーとグリーンを基調としたチェックシャツを着用している。シャツの裾は、もちろんジーンズにインしている。

マウンテンパーカ、中にダウンベストとウールシャツ。もう一度、鹿を仕留められるか？

弾丸を一発だけこめて、シカを狙う姿が神々しく描かれている。この一発だけ「ワンショット」という言葉が映画のストーリーを左右する大切なキーワードとなる。

なんと「ディア・ハンター」にはレッド・ウィング社が衣装協力を行っている。レッド・ウィング博物館にもその旨が明記されている。

ワッチキャップも映画を盛り上げるのに一役買っている。リアルに狩猟シーンの防寒として使われているのだが、マウンテンパーカとの愛称は抜群。驚くほど自然体だ。

- 〈P68-71資料協力〉
- ① サファリ1号店 ☎03-5378-9230
  - ② シーエー ☎03-3313-1710
  - ③ ベルベルジン ☎03-3401-4666
  - ④ ジャンピンジャップフラッシュ ☎03-5724-7170
  - ⑤ 2nd-Boom ☎03-3462-1721
  - ⑥ 代官山 蔦屋書店 ☎03-3770-2525
  - ⑦ グラ ☎04-4934-8018



劇中では、ベージュ色のスナップボタン式のダウンベストを着用。襟がなくリブが存在しない独特のデザインで、シャツの襟がよく映える。これまたかなり男らしい。

映画公開後、一躍注目を集めたのが、オレンジのマウンテンパーカだ。ジッパーの色や各ディテールの形状などから、「シエラデザイン」ではないかといわれている。

ベトナム戦争帰還後は、終止ミリタリーユニフォーム姿であるが、前半シーンはおおむねジーンズを着用している。ストレートジーンズであろうがメーカーは不明だ。



ベトナム戦争によって人生を狂わされる男たちの悲劇を描いた渾身のヒューマンドラマ。アカデミー賞5部門に輝いた不屈の名作だ。ぜひとも鑑賞を。⑥

## DEER HUNTER

監督マイケル・チミノ、主演ロバート・デニーロ。1978年公開のアメリカ映画。約3時間の大作だ。1960年代、ベトナム戦争当時のアメリカの若者と戦争の悲惨さを描いた傑作。出征前の日常シーンでは、当時のアメリカの一般男性の気取らないファッションが映し出される。ネルシャツやウールシャツの登場回数も多く、無頓着なカッコよさが漂っている。

必然が生み出したレイヤリングのカッコよさ  
『ディア・ハンター』を見ることになったのは、先輩方に、ロバート・デニーロのマウンテンパーカの着こなしがすこぶる男らしくていい、という話を伺ったからだ。



KEY POINT

## Mountain Parka

映画『ディア・ハンター』の中で、ベトナム戦争出征が決まっている3人とその仲間達が山へ入り狩猟を行なうシーンがある。出征が決まっている男たちの影は、神々しい山々と共鳴し、とりわけ神秘的な佇まいとして映し出される。このシーンで、主役のデニーロが着用しているのがオレンジ色の4つボケのマウンテンパーカである。70年代～80年代製の「シエラデザイン」のマウンテンパーカは、塗装されたグレーのフロントジッパーが使われている。確認はないのだが、デニーロの着るマウンテンパーカにも同じ色合いのジッパーが見て取れる。①

日本での劇場公開時のパンフレット。右のライフルを構えているのが、主役のマイク役を演じたロバート・デニーロ。どこか影を持った青年役を圧倒的な演技力で魅せる。

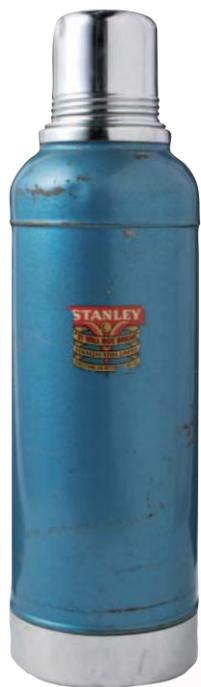
Photo/Takanori Aoki (WPP)

ちなみに、「ディア・ハンター」の狩猟シーンを過ぎると内容が一気に激変。マンパバどこの話ではなくなるので心して鑑賞しよう！(D・S)



# 「ディア・ハンター」をヒントに 2012年スタイル

映画「ディア・ハンター」に出てくるマウンテンパーカを着たスタイルは、完全に山歩きを想定したものだ。さすがに街中では武骨すぎるだろう。ベーシックなアイテムも、色味と組み合わせで、現代的なシルエットにすることができる。⑦



劇中のマウンテンパーカスタイルの脇役として光っているワッチキャップ。写真は、U.S NAVYもので比較的新しい年代のデッドストックモデル。⑤

「STANLEY」のヴィンテージ水筒。ハンター達が狩猟に出る時には、こんな水筒を持参していたのではないかと。武骨さが魅力の貴重な50年製。⑥



## L.L.BEAN

右/1960年～70年頃の筆記タグが付いた4つボケのマウンテンパーカ。③ 左/おそらく1970年～1980年代のモノ。深みのある色合い。④



## SIERRA DESIGNS

1970年代～1980年代頃の「シエラデザイン」のマウンテンパーカ①。ベージュのマウンテンパーカのみ②。

## WOOLRICH

年代的には、おそらく1970～80年代のものではないかと思われるが、状態がよく色合いも秀逸だ。⑧





Photo/Masakuni Miyasaka (WPP)

## KEY POINT

### Style For Gardening

庭仕事を始めると1日仕事になりがちだ。土にまみれ、木の枝や根っこを切ったり掘り返したり……。季節によっては暑さや寒さの対策もあるだろう。リネンやデニムの素材をうまく組み合わせ快適さを保ちながら作業を進めたい。首元のスカーフや帽子なども必需品といっていいたいだろう。作業着の修繕跡は、着用者の“庭”に対する思いを感じさせる。写真のコーディネート②

ビートルズで世界の喧騒に巻き込まれた男が、その後、生涯にわたり庭での時間を大切にすることを考えると、すべては変わり行く、と歌ったジョージの心の内が少し見えるような気がする。(I・I)

- (P102-105資料協力)  
 ①カプリ ☎075-211-5221  
 ②カーブツ ☎03-3464-6868  
 ③Crossed Arrows ☎03-5724-4623



「All Things Must Pass」。1970年発売当初はモノクロジャケット、カートンボックス入りの3枚組み。現在は着色したジャケットの2枚組CDがお求め安い。



木彫りによる小人族の妖精ドワーフの人形4体がジャケットに同居する。フライアーパークの元々のオーナー、クリスプ脚の奇怪なセンスのひとつ。ジョージの風体、モノクロの世界との相乗効果で、名盤ジャケットの仲間入りを果たした。



### GEORGE HARRISON

ジョージ・ハリソン。英国リバプール生まれ。ミュージシャン。EX. ビートルズ。1943-2001。ザ・ビートルズのリード・ギタリストとして、1962年イギリスにて「Love Me Do」でデビュー。レノン/マッカートニーという天才ソングライターの陰に隠れながらも「While My Guitar Gently Weeps」「Here Comes The Sun」「Something」などキラーチューンをものにする。ビートルズ解散後、3枚組ソノアルバム「All Things Must Pass」を発表。チャリティコンサート「Concert for Bangladesh」をプロデュースする。2001年病気で逝去。享年58歳。

ビートルズのなかで一番帽子の印象があるジョージ。ここでは迷彩柄のハットをかぶっている。「ザ・ビートルズ・アンソロジー」のDVDのなかで、チロルハットを、映画「レット・イット・ビー」のなかでつばひるのレディースみたいな帽子を着用する姿がチラッとだけ映る。

デニムのカバーオールらしき上着を着用し、「ソロ宣言」をすると同時に大邸宅「フライアーパーク」の庭改造にも着手し始める。およそ世界一のポップスターに似つかわしくない風体に、ファンたちは驚いたことだろう。

1970年にビートルズが解散し、ソノアルバム「オールシングス・マス・パス」を発表したジョージ・ハリソン。そのジャケットには、長靴を履き、カバーオールに身を包んだジョージがいた。

ジャケット撮影時は茶色のパンツを履いている。タイトなシルエットに見えるが、裾はゴム長靴のなかにたくし込んで庭仕事をする気満々のスタイリングだ。

# 「すべては変わりゆく」庭に執心した音楽家の心境



19世紀後半から20世紀初頭の麻のアンティーク穀物バッグ。刻印がオシャレ。フランス製。②



KLMオランダ航空の整備士のつなぎ。もちろんガーデニングにもパッチリ使えるアイテムだ。②



下北沢「ブロード オン ブロード」



19世紀後半から20世紀初頭のワークエプロン。フランス製。リネンのざっくりした風合い。②



ハンティングパンツ。厚手の生地で耐久性があり、防寒性も高い。冬場はコレで。②



モールスキン・ワークパンツ。フランス製。生地が丈夫で防寒性も高い。30's~50's。フランス製。②



生地が丈夫なワークエプロン。フランス製。50's~70's。庭仕事に重宝するアイテム。②

## 古生地を使ったリメイククローズ

KEYTON×Crossed Arrowsのコラボレーションで、ヴィンテージ生地を使って、洋服を作ってしまうというアイデアを実現したのが「ラグ・ドクター」というブランドだ。長髪に山高帽をかぶり、ジョージ・ハリンススタイルを今風に見せてくれた Crossed Arrowsの山口さんは「ジョージの土を大切にしている生き方と、ボクたちが古生地から新しい服を再生しようとする試みは、どこか共通するものがあると思います」と静かに思いを伝えてくれた。

Crossed Arrows代表の山口さん。「ラグ・ドクター」のノルディックパッチワークセーターとリベアエンジニアパンツで。③

ラグ・ドクター「エンジニアショートジャケット」。50's~60'sのドイツワークシャツのリメイク。③



ラグ・ドクター「エンジニアロングジャケット」。ドイツ製エンジニアコートに修復のリメイクをプラス。③



ラグ・ドクター「オーバーオールバックパック」。60'sのオーバーオールをバックパックにリメイク。③



フランス製のコーデュロイハット。庭いじりに帽子は欠かせない。50's~70's。②



アルミポット。推定50's以前。曲線がフランス製らしくアートなラインを描いている。②



ストライプワークパンツ。1900~20's。フランス製。飛行機の整備士用。庭使いももちろんOK。②

20'sのインディゴリネン製ファーマーパンツ。バックシンチなどディテールも貴重。①



ポーチ付きレザーベルト。オールレザーで雰囲気あり。小物の携帯に便利。フランス。50's~70's。②



ミリタリーTシャツ。吸水性がよくベーシックアイテムとして不可欠。ドイツ製。②



レザーメッシュ手袋。レザ一部分がかなりやわらかく細かい作業などにもOK。フランス製。50's~70's。②



イギリス製スカーフ。イラストが描かれており細長く巻きやすい。庭仕事に必携。②



左/シルクスカーフ、右/スカーフ。30's~50's。フランス製。庭仕事もおしゃれに行きたい。②